

2023 年度河川技術に関するシンポジウム
および「河川技術論文集 第 29 巻」論文募集

河川部会は、「従来の河川の概念にとどまらず、水・土砂・物質循環系としての広義の河川と、人だけでなく様々な生物との関係をより良いものとしていくための実践的技術の総体」として河川技術をとらえ、産学官を問わない広い裾野から精力的に行われる研究や技術開発が河川や流域の現場に広がることで現状をより良いものへと変えていき、そのことが国民や流域住民から肯定的に認知されることで、河川技術の発展とその現場への適用がさらにいっそう促進されるという好循環の形成に貢献することを目指しています。

それを実現するために河川部会は、水工学委員会の三部会（基礎水理部会、環境水理部会、水文部会）との連携協力を推進するとともに、学術と技術との橋渡し、官・学・民の連携、従来の河川工学以外の河川に関わる学術分野との学際領域への展開など、河川技術に求められる様々なインターフェースとしての役割を担うことを志向しています。

その一環として、河川部会では 2023 年度も標記シンポジウムを下記のとおり企画いたしました。「河川技術論文集」も今回で 29 巻となり、これまで蓄積されてきた技術を活かし、さらに河川技術が実践の場でより機能的に発揮されるよう、研鑽してきたいと考えております。ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

・開催期日

2023 年 6 月 22 日（木）・23 日（金）

・開催方法

土木学会講堂（新宿区四谷一丁目 外濠公園）・オンライン併用（予定）

オーガナイズドセッション：数人の発表者および参加者による議論
（会場参加者（パネラー・関係者）と ZOOM 上でのオンライン参加者の併用を予定）

ポスター発表・OPS：専用サイトでの事前ディスカッションを踏まえて 23 日（金）にポスター発表と質疑応答

・参加費

一般（会員）6,500 円、一般（非会員）8,000 円、学生（会員・非会員）4,000 円（予定）

いずれも論文集（占用サイトからのダウンロード方式を予定）代を含む。
論文集冊子（白黒印刷）を希望される方は先着順で受付けて事前送付しま
す。参加費と別に送付料 1,300 円を徴収します。

参加方法はオンライン決済による参加登録とします。詳細は 5 月上旬までに
河川部会 HP に掲載します。

河川部会 HP： <https://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/>

・ 登載に係る著者負担金

要旨査読・本文査読による審査を経て、河川技術論文集に登載される論文等
の著者には、参加費とは別に 1 編につき 12,000 円を負担していただきます。

・ シンポジウム募集課題（「特定テーマ候補」と「その他一般課題」）

本シンポジウムは、1 つの会場で特定のテーマについて全体で議論を進める
オーガナイズドセッションと、OPS・ポスター発表から構成されます。

オーガナイズドセッションにとりあげるテーマ候補として、複数の「特定テ
ーマ候補」を設定しました。これらの候補から、編集を経てオーガナイズドセ
ッションにとりあげる 3 つ（予定）のテーマを選定します。オーガナイズドセ
ッションにとりあげなかった特定テーマ候補は、「その他一般課題」のポスタ
ー発表と同時並行する OPS で取り上げます。

「特定テーマ候補」以外に、「その他一般課題」の論文等を募集します。

各「特定テーマ候補」と「その他一般課題」について [別添 1](#) に説明していま
すので、必ず一読した上で投稿してください。

投稿に当たり、原稿内容に適する課題として「特定テーマ候補」と「その他
一般課題」を選択します。「特定テーマ候補」については第 3 希望まで記載い
ただくことができます。なお、内容や他の投稿とのバランスによって、記載い
ただいた希望と異なる課題に割り振る可能性があることをご了承ください。

特定テーマ候補：流域治水が駆動する技術・研究の発展と社会実装の加速

特定テーマ候補：「田んぼ」が有する貯留・遊水効果

特定テーマ候補：河川・湖沼・港湾等の掘削・浚渫土工と高台整備

特定テーマ候補：減災と堤防越流技術

1．越流対策の技術開発状況

2．減災におけるリスクガバナンス

3．越流外力（河道水位）の平面分布と堤体の越流耐力評価、越流対策

3-1 河道内の水位と破堤に大きな影響を及ぼす越流水深の把握

3-2 越流破堤の力学的な解釈・評価に資する技術・知見の実態、技術開発

3-3 越流水による堤体浸透が破堤に与える影響

特定テーマ候補：超過外力生起時の被害の軽減を図る河道設計・河道管理に資する河川技術

特定テーマ候補：河川技術の高度化に繋がる DX の取り組みや技術開発

特定テーマ候補：ダム機能強化および持続的管理に資する技術開発

- 1．ダムの治水機能向上と水力発電増強の両立に向けて
- 2．ダムの持続的管理に向けた貯水池土砂管理の新たな展開に向けて

特定テーマ候補：河川管理・減災に資する観測技術

特定テーマ候補：「有効粒径集団」・分級堆積知見の土砂管理への普及・活用

特定テーマ候補：河口の土砂管理

特定テーマ候補：土砂を流す重要性和河道で土砂を流すための課題

特定テーマ候補：環境 DNA 活用によって広がる河川環境整備

特定テーマ候補：気候変動による河川水温への影響と対策の方向

特定テーマ候補：魚類等が遡上・降下しやすい川づくり

特定テーマ候補：被災予防のためのローコストな河川（維持）管理対策の工夫とその効果検証

特定テーマ候補：セグメント 1、2-1 における砂州水衝部移動

特定テーマ候補：メンテナンスに必要な数値計算技術のために 現在の河床変動計算技術の精度と限界を知る

- 1．予測を前提とした河床変動計算の適用可能性と限界
- 2．活用側からの要求精度とその根拠

特定テーマ候補：中水敷・高水敷の樹林化メカニズムと対策の方向性

特定テーマ候補：真に河川を理解する～自然史と社会史の両面からの追求～

特定テーマ候補：河川構造物

特定テーマ候補：堰と頭首工の技術変遷と今後の方向

特定テーマ候補：橋梁等の河川災害とその対策に向けて

特定テーマ候補：ゲートに関する課題と今後の技術開発方向

特定テーマ候補：河川堤防 ーパイピング・浸透破壊ー

特定テーマ候補：土工管理技術の進展と浸透性能評価

特定テーマ候補：堤防を侵食から保護する護岸の安全性、河道設計

特定テーマ候補：浸透対策を兼ねた護岸・河道の設計・監視

特定テーマ候補：堤防表のり面に作用する流速・せん断力評価

特定テーマ候補：堤防のせん断力に対する耐力発揮のメカニズムと植生管理メンテナンス軽減策

- 1．耐力発揮のメカニズムと必要なメンテナンスの関係
- 2．メンテナンス軽減策（植生管理を前提としないもの含む）

その他一般課題

・編集（採択判断）における留意事項

「論文等」には、後述する投稿ジャンルに示すように、論文、総説、報告があります。河川部会では、その目的に沿って、河川技術が適用される現場での取り組みに根ざした实际的知見（自然公物である河川で起こる変状や問題について解釈し、それに応じた対策を立案する“臨床”技術もその1つ）の共有が、後述する人材不足や技術継承困難という課題を解決する上で極めて重要と考えており、「報告」も論文や総説と同等に重視します。

特定テーマ候補、一般課題（その他課題）とも

ü 「河川技術を主題とし、あるいは生物・生態、社会経済などの周辺領域の論文等については河川技術と密接な関係を有し、いずれも河川整備や管理に資するもの」

また

ü 「実際の事象に基づいた考察がなされ、研究された論文等であること。たとえば、現地を対象とした観測・調査、数値計算や模型実験などから見出された知見を基に、問題設定がなされ研究が展開されている論文等であること」(投稿規定3.)

を投稿の条件とします。

ü 一特に論文については、河川技術論文集投稿規定、1．投稿ジャンル(1)論文（理念に関する論文を含む）に示されている、“河川部会の活動目的「その効果や課題が具体的に明らかとなり、そのことが河川技術の発展と現場への普及を促進し、ひいては国民や流域住民の河川技術に対する肯定的認知度が高まるという好循環の形成に貢献することを目的」に照らして当該論文がどのような貢献をするのか明らかにされたものを求める”ことが具体的に説明されているかを注視して判定します。

これらの条件に該当することが読み取れない原稿は不採択と判定します。

・第28巻についての編集総括

以下の述べる第28巻総括を踏まえていることも、「編集意図との適合性」において考慮されます。別添2ファイルとしますが、必ず一読してください。

[<別添2>](#)

・論文集投稿ジャンル

論文等には次のジャンルがあります。いずれも、要旨、全文の2段階審査を実施します。審査は河川技術論文集編集委員会により行います。論文審査要領については、土木学会水工学委員会河川部会のホームページをご覧ください。投稿者が投稿時に選択したジャンル「総説・論文・報告」にて査読を行います。査読結果を踏まえたジャンル変更は原則行いませんが、ジャンル変更することで有益な知見の提供が期待できると判断した場合には、ジャンル変更の修正提案を行う場合もあります（変更するか変更せず不採択でよいとするかは著者の意志で決定）。

(1)論文（理念に関する論文を含む）

論文は、河川技術上新しい事実の発見や解釈を含むものであり、科学的な手続きを踏んで得られた結果に対して論理的に筋の通った考察が加えられているもの。また、理念に関する論文とは、新しい河川整備・管理に資する理念や提案であり、新規性・有用性があり、論理的に筋の通ったもの。

河川部会の目的、特長に則り、理念に関する論文の投稿も重視しています。

(2)総説

これまでに公表された当該分野に関する事実や論文に含まれた多くの知見を幅広く総括することによって河川技術に関する課題を比較考察し、今後の研究及び技術開発の方向性を考察した論文

(3)報告

調査・計画・設計・施工・現場計測・研究プロジェクトなど河川技術が適用される現場での取り組みに関する報告で、河川技術的に有益な内容を含むもの。論文に求められる要件を満たす途上ではあるが、報告の価値があると考えられる事例研究の成果も、このジャンルに積極的に投稿ください。

・発表及びディスカッション形式

特定テーマ候補に投稿された論文等は、オーガナイズドセッションにて発

表・ディスカッションしていただくこともあります。その場合の発表形式は各特定課題候補のオーガナイザーより連絡いたします。それ以外の論文等は、特定テーマ以外のテーマ、その他一般課題と同様の発表形式になります。

オーガナイズドセッション以外の特定テーマ候補、その他一般課題については、特設サイト上のディスカッション（発表者主催のシンポジウム前の Web 会議等を用いたディスカッションも奨励します）とオンラインによるポスター発表または OPS が基本となります。

・投稿資格

河川の技術に求められるさまざまなインターフェース的側面を追求するという河川部会の趣旨から、非土木学会員でも投稿は可能です（発表者、共著者とも）。また、同一著者の論文等への複数投稿は認めますが、発表は一人一編に限ります。

・要旨による応募方法

応募方法は、2022（令和4）年12月上旬に河川部会ホームページに掲載しますのでご覧ください。同ホームページに掲載された形式で下記内容(1)から(6)を記載していただきます。応募の言語は、日本語以外に英語も受け付けます。ただし、連絡等のやりとりは日本語を基本にすることを御了承願います。

河川部会ホームページ(URL)：<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/>

(1)題目

(2)要旨

1)応募する課題の区分、2)投稿のジャンル、3)第一著者、4)題目、5)要旨「(a)目的」、「(b)内容」、「(c)得られた成果」に分けて要旨全体を1000字以内（英文の場合は、400ワード以内）に記載、6)関連論文を合わせてA4用紙1枚に記載してください。7)図表・写真（合わせて2点を目安・判読できない図表の掲載はNG.）はA4用紙1枚にまとめたものを添付可能とします（この場合、合わせて2ページ以内）。この字数（あるいはワード数）と図面・写真の制限を厳守してください。また、既往の関連論文がある場合には6)関連論文に論文名および論文集名を別記し、投稿論文等と既往の関連論文の違いを明確に5)要旨に記述するようにしてください。

これらを2Mbt以内のpdfファイルとして作成しアップロードしてください。

第1段階審査は、この論文要旨をもとに行います。

(3)応募する課題：（特定テーマ候補（第3候補まで選択可能）or その他一般課題）

(4)投稿のジャンル:(総説 or 論文 or 報告)

(5)著者、発表者、発表者所属

(6)連絡先:(代表者の氏名、郵便番号、住所、電話、Eメールアドレス)

・応募締切り

2023年1月6日(金)15:00

・スケジュール

要旨による応募に対して第1段階審査を行い、2月上旬に代表者に審査結果をお送りします。全文原稿は、A4用紙で4ページあるいは6ページ(様式は河川部会ホームページに掲載)で、2023年3月24日(金)10時を提出期限とします。提出された原稿は、編集委員会で第2段階審査を行い、期日までの修正を求める場合や、掲載可否を決定します。掲載が決定した論文等の最終原稿は5月下旬から6月上旬に、ポスターについても6月上旬に特設サイト上にアップし、ディスカッションしていただきます。

なお、シンポジウム当日のOS等の発表有無及び特設サイトでのポスター掲示・ディスカッションとオンラインでのポスター発表の形式は第2段階審査後5月中旬にお知らせいたします。シンポジウムのプログラムは、河川部会のホームページに掲載します。

河川技術の進展、研究活動への意欲向上を目的として、以下の表彰制度を設けております。

・「河川技術論文賞」

下記に示す観点で優れた成果を上げた論文・報告・総説の著者を表彰します。

独創性に富む成果を挙げたもの、将来の展望を与える理念・提案や研究及び技術開発の方向性を提示したもの、および河川技術が適用される現場で困難な研究・技術開発を成し遂げた貴重な成果が盛り込まれているもののいずれかに該当すると認めうるとともに、その主題と成果に大いなる発展性を備え、河川技術の進歩、学際的な展開、体系化および普及に顕著な貢献をなしたと認めうる論文・報告・総説。

・「優秀発表者賞」

特設サイト上でのポスター掲示とディスカッション、オンラインでのポスター発表者のうち、優秀な発表及びディスカッションを行った実務者及び研究者に対し、授与する。

重要なお知らせ：河川部会の新たな取り組みとご協力をお願い

「河川技術に関するシンポジウム」は、河川に関わる重要な動向を把握し、河川技術を発展させていくための情報・意見交換を行う場として活用されています。河川部会は、シンポジウム及び河川技術論文集（以下「論文集」）のさらなる充実をはかるべく、継続的な取り組みを始めました。

その一環として、論文集の原稿採択の考え方の再徹底、査読と編集の役割分担と編集責任の明確化、編集結果の投稿者へのフィードバック、論文集の編集・シンポジウムを通じたディスカッション活性化と河川技術開発の整理・積み上げを行うこととしました。

河川技術論文集の採択においては、河川技術の発展と現場への普及を重視してきました。それが上記した場としてシンポジウムを機能させるのに不可欠な要素であるからです。こうした重要な観点でありながら、近年、今後の実務への展開を強く意識した特に先駆的で独創性の高い論文等の採択が、必ずしも十分でないとの旨のご指摘を複数受けました。

そこで、査読及び論文等採択の決定にあたり、上記観点について十分に踏まえることを再徹底いたします。また、投稿規定の3.投稿に求められる条件：

“「河川技術を主題とし、あるいは生物・生態、社会経済などの周辺領域の論文等については河川技術とのインターフェースを有し、いずれも河川整備や管理に資するもの」、また「実際の事象に基づいた考察がなされ、研究された論文等であること。たとえば、現地を対象とした観測・調査、数値計算や模型実験などから見出された知見をもとに、問題設定がなされ、研究が展開されている論文等であることを投稿の条件とする。」の審査も再徹底します。

この取り組みを、河川技術論文集をより充実させることに繋げていくために、投稿される皆様におかれましては、特に先駆的で独創性が高い内容を含む場合には、河川技術の発展と現場への普及や今後の実務への展開に対する投稿論文等の意義、位置づけ、関わりなどについて、これまでに増して十分な記載いただくようご配慮ください。要旨原稿・本原稿双方において、投稿規定の3.投稿に求められる条件を満足する原稿であることが明瞭に読み取ることができるように、記載してください。

査読と編集の役割分担と編集責任の明確化については、1)テーマ別に編集責任者を置きテーマ別編集責任者に編集責任があることの明確化、2)テーマ別編集責任者とは別に編集長を置き編集プロセスが適切に行われていることを確認することの明確化、3)査読者と編集に携わる者の区分明確化を行いました。編集の充実を期する観点から、査読期間の増加、編集期間の設定を行うため、投稿開始時期を前倒ししました。例年よりも投稿者に負担をかけることとなりますが、趣旨を踏まえご協力いただきますようお願い申し上げます。

編集結果（特に原稿の評価に関する部分）の投稿者へのフィードバックについては、本論文の不採択原稿についてのみ行っていましたが、要旨査読結果では全文査読審査進出・不採択の結果とその理由を、全文査読審査進出論文等の本原稿については採択された結果のみをお伝えしていましたが、これは、「原稿の評価は読者に委ねるもの」という立場を堅持する立場からは編集で行われた原稿評価の開示は必要ないと考えていたためです。しかし、社会情勢の変化の中で、技術継承や人材不足が大きな課題になっています。今回から、要旨原稿及び採択論文の本原稿評価も記載してフィードバックすることとします。これにより、河川技術分野の技術継承や人材不足の克服に寄与することを期待しています。

論文集の編集・シンポジウムを通じたディスカッション活性化と河川技術開発の整理・積み上げに関しても、問題意識はと同様、技術継承困難・人材不足に発しています。28巻に及び論文集作成とシンポジウムの開催の積み上げをもってしても技術継承困難や人材不足の課題は解決するどころか深刻化しています。第29巻編集長としては、論文集査読規定の2.(2)「原稿・・・の価値は一般読者が判断すべきものである」を重視するあまり、編集者としての評価開示、論文集の積み重ねを踏まえた河川技術の課題や技術開発成果、技術開発の方向性整理の努力が欠けていたため深刻化しているという仮説をもっています。また、一昨年、昨年とコロナ禍でオンライン開催となり、ディスカッション可能なツールとして特設サイトを活用しました。ディスカッションが充実し始めているところです。今号でも引き続き、ディスカッションの期間を設けるために論文集公開をシンポジウム開催よりも早めてディスカッション期間を確保します。さらにテーマ別編集責任者は次巻の募集要項に総括と期待される投稿の方向を提示するとともに、総説原稿を投稿するよう努めるものとします。投稿者におかれましても、河川技術の発展に向けて、ディスカッションの充実に努めていただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、河川技術論文集は河川部会と投稿者の協働による手作りの論文集です。原稿フォーマットを整えることは著作者責任であることは当然のことですが、たった1編の不行き届きな原稿が掲載されることにより論文集全体の評価が毀損され、他の著者に迷惑を及ぼします。各投稿者はこのことを念頭に置き、原稿受付の条件として、フォーマットチェックリストを活用して投稿者は原稿について指定するフォーマットに整えた上で投稿いただきますよう重ねてご協力をお願いいたします。

・問合せ先

河川部会長 諏訪 義雄

〒305-8516 茨城県つくば市南原1番地6

国立研究開発法人 土木研究所 河道保全研究グループ

e-mail : suwa-y673cl@pwri.go.jp